

第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐる 平成18年9月19日
 講師 佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
 樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
 講師 久米えみさん ながのクラッセ会長
 樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
 講師 鷺沢幸一さん アスレながの事務局長
 室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
 講師 清水隆史さん フォトグラファーほか
 常盤昭二さん CMディレクター

わいがやサロンスペシャル
 スポーツによるコミュニティ再生 平成19年2月22日
 講師 二宮 清純さん スポーツジャーナリスト

第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
 講師 虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト

第6回 環境と街づくり
 ばていお大門・TOiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
 講師 竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長 [一級建築士]

第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
 講師 木田 勇さん 信濃グランセローズ監督

第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
 講師 荻原健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト

第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力/
 「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
 講師 松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授

第10回 命のバトンを渡す「ピオトープ」/
 長野市をピオトープネットワークシティに 平成19年11月14日
 講師 松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授

わいがやサロンスペシャル
 長野・考/長野の明日を話そう 平成20年2月14日
 講師 中馬清福さん 信濃毎日新聞主筆

第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
 講師 浜このみさん クッキング・コーディネーター

第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
 講師 角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長

第13回 アメリカ生活で感じたあれこれ
 ー変化に対して前向きになることの大切さー 平成20年8月19日
 講師 針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)

第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
 講師 水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長

第15回 長野バルセイロー 優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
 講師 バドゥ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン

第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
 講師 町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事

第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
 講師 中山 修さん 中山法律事務所 弁護士

第18回 循環備蓄型の農業の実践
 ー宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みるー 平成21年6月3日
 講師 塩澤研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役

第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
 講師 小出陽子さん (同)ふぎっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー

第20回 信州の伝統から生まれる食文化
 ー漬物の新しい風ー 平成21年9月2日
 講師 宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋

第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
 講師 志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっこらしょ/代表理事

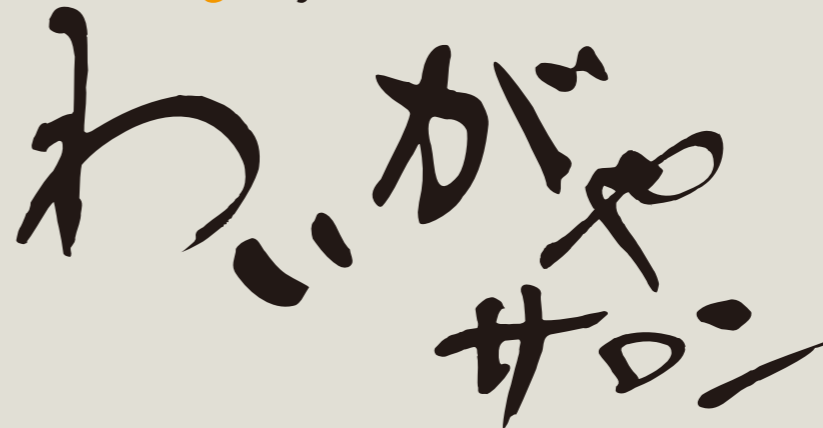
第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
 講師 薩川了洋さん AC長野バルセイロー新監督

第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
 講師 石沢一男さん (有)田舎工房 代表取締役



NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
 TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
 www.nupri.or.jp
 e-mail: nupri@nupri.or.jp



通信

Vol. 24
 2010.8



NPO法人 長野都市経営研究所

第24回 3度目でつかんだオリンピック出場

平成22年7月28日(水) 18:00~20:30

講師／新谷志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務

■座長 岩野 彰 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911



しんや しほみさん
1979年生まれ、上伊那郡宮田村出身。学生時代から常に同世代を牽引する日本女子スピードスケート界のトップ選手として活躍し、筑波大学卒業後は長野市の竹村製作所スケート部に所属。2010年2月開催のバンクーバー大会で念願のオリンピック出場を果たした後、今期シーズンをもって引退を表明

梅雨明けから猛暑続きとなった7月最終週に開かれた今回のサロンの講師は、世界を舞台に活躍した氷上のトップアスリート。まだ記憶に新しい今冬開催のバンクーバー五輪大会代表・女子スピードスケート選手の新谷志保美さんのお話を聞きました。

小学校2年生の大会入賞で スケートにのめり込む

私がスケートを始めたのは、小学2年生からです。父が地元のスケートクラブの指導者をしていて、自然にスケートリンクに連れて行ってもらえるような家庭環境だったんですね。最初の年に伊那地区の大会で3年生以下の部で上級生の中に混じって3位に入賞するという美味しい思いをしたのがきっかけでのめり込み、今日に至ったという感じです。小学3年生の時には、夏のトレーニングで朝の5時半からローラースケートをやっていたのですが、早起きしたり、無理矢理やらされたりするのが嫌で逃げていたのですが、本番の冬になったら1、2秒しかタイムが速くならなかったんです。ふつうならば5秒や10秒は速くなれるはずの時期なので、やっぱり練習は大事だなと気づいて、それからしっかりトレーニングに励むようになりました。学生時代の戦績としては、全中優勝、インターハイ優勝、インターカレッジでは500m、1000mで2冠3連覇を達成。ちなみに初

めの日本代表入りは、高校1年生の時。当時は長野オリンピックの2年前で、冬季アジア大会にジュニア枠で連れて行っていただきました。

オリンピックへの挑戦

私が初めてオリンピックというものを意識したのは1998年の長野オリンピック大会。当時はまだ高校3年生で、挑戦というよりは出られたらいいなあと思うくらいでした。本格的なチャレンジは、大学4年生だった2002年のソルトレーク大会からで、初めてワールドカップに出場した年でもあり、期するところはあったのですが成績及ばず代表入りはかないませんでした。

大学を卒業して縁あって長野市の竹村製作所に入社すると、その1年目に自分でも思ってもみなかったタイミングでワールドカップ初優勝を飾ることができました。さらに翌年もワールドカップで2勝をあげるなど実績を積み重ねたのですが、2006年のトリノ大会に調子を合わせるができずオリンピック出場には届きませんでした。

その後、また復活をして世界スプリント4位、全日本スプリント優勝などを経て、2009年12月末にエムウェーブで行われた選考競技会で出場枠4名の中に入り、ようやくの2010年バンクーバーオリンピック女子500mへの出場を決めることができたわけです。年齢的にもこれが最後の挑戦と思っていたので、出場



スピードスケート会場の五輪オーバル

が決まった瞬間は本当に嬉しく、またホットした気持ちになりましたね。

よくワールドカップとオリンピックの違いについて聞かれますが、ワールドカップは年に幾度もレースがあるのに対し、オリンピックは4年に一度だけのもの。当然、1本1本に対する滑りへの思い入れの差はあります。

オリンピックイヤーだった2009-2010年シーズンは例年にないハードスケジュールでした。2週間くらいの合宿が毎月のようにあり、その間に苦しいコーナリングを重点的に練習する個人合宿も実施。その上、国内大会があり、そこで選ばれてワールドカップに出場し、そのワールドカップも開幕4戦分の成績がオリンピックの国別の出場枠に直結してくるため、ずっと気が抜けない日々が続いていました。

全力を出し切った悔いのない走り

バンクーバーには、2009年2月のプレオリンピック、2009年の夏に代表合宿、そして2010年2月の本大会と3度訪れました。その中でも、いちばん滑りやすかったのは本大会でしたね。オリンピックはもちろん特別なものですが、いつもと変わらないようにと心がけてレースに臨みました。運命の日は、2月16日。スタート直前の心境は、とにかく「やるぞ!」。会場はたくさんの観客で埋まり、照明のせいか空気がとてもキラキラと見えたのを憶えています。1本目はアメリカのヒュー・リチャードソン選手、2本目は日本の小平選手という組み合わせで競い、最終成績は38名中14位でした。私は身長156センチでエントリーした選手の中でいちばん小さかったわけですが、得意のバネを活かし、すべての力を出し切って悔いのない滑りをすることができました。夢はあきらめなければかなうと言いますが、本当にあきらめなくて良かったなど、実際にオリンピック出場できたことを通して感じています。

現役生活を引退して

これまで私の人生の中心にはいつもスケートがありました。今年3月をもって現役を退いた現在は、ちょっとのんびりして新たな道を考えているところです。まだコースデビューはしていませんがゴルフの打ちっ放しに行ったり、現役時代よりも気軽に酒を楽しんだり、選手時代にはできなかったことを楽しんだりしています。

選手時代を振り返ってみると、とても充実していましたね。こうして長く選手生活を続けてこられたのは、常にもっともっとやりたいことがあるという考えを持っていたから。自分の思い通りに上手に滑れたときの気持ちよさをずっと追いつけてきたような気がします。そして、何より純粋にスケートが楽しかったんです。練習は嫌になっても、スケート自体を嫌いになったことは一度もありませんでした。

長野市にはせっかくエムウェーブがあるのに、実業団でスケートをしている人も少なく、競技としてもあまり盛り上がりません。たとえばエムウェーブが無料で開放されたときにはもの凄く混むわけですから、きっと潜在的な需要はあるんだと思います。まだスケートをしたことがない人も、もう少し日常的にスケートに接する機会を増やしていくことも大切なことではないかと考えています。



お話をお聞きして

「あきらめなければ夢はかなう」という貴重な体験談をお聞かせいただきました。新谷選手は、この度、長野オリンピック記念基金を引き継いで創設される「ながの夢応援基金」の応援大使にも任命されたとのこと。今後のさらなるご活躍を楽しみにしています。(T)



当日はオリンピック参加認定証やワールドカップのメダルなどがサロンに展示され、オリンピック用のウェアに実際に触れさせていただくことができました

